

鴻池運輸株式会社 様

■インタビュー
 関西支店 陸運泉北営業所 所長 木下 恵嗣氏

車載ステーション DTS-C1 導入事例

カードレスで デジタコの運用管理、大幅軽減



木下 恵嗣 所長

徹底した速度管理による 安全走行の確立

鴻池運輸様は、デジタルタコグラフ（以下：デジタコ）をいち早く導入して、運行管理に積極的に活用している。様々な業種の荷主を有する同社にとって、顧客への物流サービスで一番重視している点が、安全。

実際の故障、事故対策以前に、社内では徹底した安全基準を設けている。輸送面では、急加速・急発進の払拭とともに、一般道路では時速 60km、高速道では 80km の最高速度基準を設定しており、事業所ごとの速度違反も厳密に管理している。

LPG（液化石油ガス）、LNG（液化天然ガス）、液化酸素、液化窒素、液化アルゴン等の高圧ガスのローリー輸送を手掛ける関西支店陸運泉北営業所では、10 年前デジタコを鴻池運輸で最初に導入し、社内でもモデル事業所として運用している。

今回、デジタコのリプレースとして最新の富士通製デジタコ「DTS-C1」を同社で初めて導入し、新製品の採用、利用効果等について、陸運泉北営業所の木下恵嗣所長に話をお伺いした。

新型デジタコで 使い勝手が大幅向上

「デジタコは長年利用しており、現場ではなくてはならない機器になっています。従来、各ドライバーが、帰社後にカードを読み込み、その日の日報を出力していましたが、10 年も使っていたため老朽化している面もあり、新しいデジタコに切り替えたわけです。」と説明する。

陸運泉北営業所での今回の導入台数は 28 台（セミトレーラ 3 台、単車 25 台）。配送エリアは近畿一円と北陸の一部に携わっているが、積載荷物が高圧ガスなため安全運行は何よりも重要だ。

鴻池運輸様では、社内での速度規定に違反する回数を営業所ごとに集計し、全社的な安全指標としているが、「最近のデジタコでは速度違反になりかけた速度になると、ドライバーに警告音で知らせる仕組みがあるが、陸運泉北営業所では、その機能が古いタイプを導入しており、違反回数の削減にも困っていた。」という。

従来機との一番の違いについて、「デジタコ自体は問題がなかったのですが、カー

ドの利用が毎日なので、カードとの接触部分の劣化などで読み取りができなくなるケースがありました。新型はデータ通信によってカードレスになっていたのが、重要なポイントとなりました。その他、パソコンの老朽化対応を必要としていたのと、安く運行管理ができるのも興味がありました。」と選定の理由を紹介した。

カードレスがポイント

さらに、「カードレスになったことで、これまでかかっていたカードの読み取り時間（1 人 1 分半）がなくなり、トラックで帰庫ボタンを押して運転手が事務所に帰ってくる頃には運転日報がすでに出力されています。従来は、車両の帰庫が集中するため、何人ものドライバーが並んで待っていましたが、全く払拭されました。」と現場での管理業務の軽減、時間短縮で具体的効果をあげていた。

ドライバーの使い勝手については、「今までも富士通製を使用していたため、操作にも慣れており、装着当初から問題なく運用され、更にカードレスにより楽になった。年齢に関係なく PC 操作に対する違和感もない。」と高く評価している。

デジタコには、ジャイロセンサを内蔵しているため、急ハンドル等の危険運転も警告が可能で、速度オーバーや急加減速などの違反を音声警告し、事務所からテキストメッセージを送信し読み上げる事もできる。

● ユーザープロフィール

鴻池運輸株式会社

本社：大阪市中央区備後町 2-6-8
 代表者：取締役社長 鴻池 忠彦
 設立：1945 年 5 月 30 日
 資本金：16 億 8,800 万円
 年商：連結 2,111 億円、単独 1,597 億円
 （※2010 年度）
 車両数：1,000 台（グループ合計）



高圧ガス車両

クラウドシステム採用 東日本大震災時にシステム・通信は安定稼働

事務所の運用が大幅向上 常に新しい機能を提供

事務所側では、「ネット環境があれば、PCの入れ替え、故障等が発生しても困らなくなり、セキュリティ、バックアップなどの心配もなく、安全性が大幅に向上しました。事業所での運用・バックアップのため従来はPC2台を使っていましたが、1台で充分運用できるようになりました。」と新しいシステムの運用性に満足している。

富士通製デジタコ「DTS-C1」は、カードレスといったドライバーの軽減とともに、事務所側のシステムの運用が大きく変わっている。

今までは、日報・安全管理などの管理システムはPC側で行っていたが、今回は、車両で取得した運行データがドコモのFOMA網で富士通クラウドセンターに随時送信され、アプリケーションとデータはセンターで管理されている。サービス名は、ITP-WebService（運行支援サービス）。利用者の利便性を考慮しながら機能アップを行っており、常に最新のアプリケーションが利用可能。更にネットワーク上でゼンリンのオンライン地図を使用でき、かつ車両の動態把握も利用できる。

動態把握は利便性が高い

「動態管理は当初は使わないと思っていたのですが、8分単位で車両の動向を一度に把握できる機能は便利ですね。導入時が12月だったので、1月～2月の雪などの天候変化が多く、帰庫の状況を把握するニーズは高く、荷主対応含めて、よく活用しています。」と説明する。

「それに、1車両ごとの月額費用が通信料

込みで2,360円というのも魅力ですね。今まで地図データを新しくするだけでも費用がかかっていたのに、常に地図データは最新のものに自動更新され、サポートなども含んでいますから、助かります。」とコスト面での評価も高い。

東日本大震災時に 通信影響なし

3月11日に発生した東日本大震災時について、「富士通クラウドセンターを利用している為震災の影響が全くなく、普段通りの運用と車両位置の把握も確実に対応できました。停電・電話回線がつながりにくいといった状態があったにもかかわらず、このシステムが、大規模な災害時・非常時での活用も十分できるとともに、システムの安全性の高さを実感することができました。」とクラウド運用の良さも実体験した。

具体的な導入による安全効果としては、「高速道・一般道の区別を今までは、運転手の操作で切り替える必要がありましたが、ETCとの連動と地点登録によって自動的に切り替えできるようになり、データの精度向上につながりました。さらに、速度超過前に事前通知があるので、速度超過が減少しました。急加速・急発進といったデータも精度が高くなり、ほとんど発生することはなくなりました。」と高い評価をしている。

鴻池運輸様は、全社的なデジタコ活用の結果を集計しており、速度超過（制限速度：一般道60km、高速道80km）「ゼロ」の運転者は、在籍する運転手中、当初70%だったが、2010年度では93%まで大幅に向上



動態把握画面



運転席での操作



PC操作

している。急ブレーキや急発進の発生回数は6分の1に減っている。

今後、緑ナンバーの車両全てに富士通製デジタコ「DTS-C1」を装着する計画で、より高精度で安全と物流品質の向上を進めていく方針だ。

お問い合わせ先

● 製品・サービスについてのお問い合わせは

株式会社トランストロン

情報機器営業部

〒222-0033 横浜市港北区新横浜2-15-16

NOF新横浜ビル

TEL: (045) 476-4640 FAX: (045) 476-5023

<http://www.transtron.com/>